



小池まさあき県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

成田空港の充実には県の責務

アジアのハブとしての戦略を！

たくさんの方々の成田市民の
後押しで勇躍、県議会に
に駒を進めた小池正昭議員
員(1期)は、フレッシュな
行動力で、県議会に新
風を送り込んでいます。
成田市三里塚で生まれ
育ったことから、成田空
港の発展を人一倍願ひ、
政治活動が続けてきた
小池議員は12月県議会
の一般質問でも成田空港
の発着30万回実現やロ
ーコスト・キャリア(L
CC)受け入れの問題な
どについて、森田知事
らに県の方針や施策を質
しました。質疑応答の模
様を特集します。



12月議会一般質問で、県の施策を質問する小池正昭県議

12月県議会一般質問 成田市特集

小池議員 成田空港は多
くの関係者の長年の努力が
あって、今が存在している
現実を改めて直視し、犠牲
になられた方々の思いに報
いるためにも、わが国のま
さに空の玄関としての役割
を今後も担い続けなければ
ならず、千葉県としても国
際空港としての充実に尽力
する責務がある。

そこです。第一点目とし
て、飛行機発着30万回実現
に当たっての成田空港の課
題をどのように認識してい
るのか。また、空港敷地内
地権者に対する県の認識は
どうか。

知事 成田空港では、発
着回数が前年度並みに回復
したものの、10月の外国人
旅客数は前年同月比で8割
に達しておらず、当面は引
き続き空港の安全性や利用
促進に向けたPR活動に努
めてまいります。

同時に、新たなステップ
として、30万回化の合意に
よって生まれたローコスト
・キャリアや国内線の新た
な需要と活力を県勢発展に
繋げるため、広域的なアク
セス整備、国内外への情報
発信、国内線の充実などの
課題について、(仮称)「グ
レイド・アップ「ナリタ」戦
略会議」において、広く関
係者のご意見をうかがいな
がら検討を進めてまいりた
いと考えております。

また、残る地権者の方々
について、発着回数が増加
する中で生活環境の悪化を
懸念しており、空港会社に

は、引き続き早期話し合い
解決を求めてまいります。
小池議員 ローコスト・
キャリアの増加が、今後の
空港経営や地域経済にどの
ような影響を与えると考え
ているのか。

総合企画部長 ローコス
ト・キャリアは、今や世界
の航空業界の大きな潮流と
なっており、特に経済成長
が著しいアジア地域では、
今後さらに増加すると予想
され、この受入れは、今後
の成田空港会社の経営を左
右するものと認識していま
す。

また、ローコスト・キャ
リアは、経費節減による航
空運賃の引き下げによって、
新たな顧客層を呼び起こす
効果があることから、空港
会社では、受け入れ体制を
強化することにより、収益
の増大を見込んでいますが、
地域にとっても、新たな観
光需要の創出、雇用の拡大
や税収増などに大きな影響
をもたらすものと考えてお
ります。

小池まさあきプロフィール

○経歴○

- 昭和41年9月 成田市生まれ 三里塚小、遠山中、千葉日大一高、日本大学理工学部卒、同大学理工学部研究科修了
- 平成7年4月 成田市議会議員初当選(4期連続当選)
- 平成21年6月 成田市議会議長
- 平成23年4月 県議会議員初当選

○現職○

- 県議会 総合企画水道常任委員会委員
- 社会福祉法人三成会理事長
- 成田ユネスコ協合理事
- ボーイスカウト成田第1団育成会長

○要望○

港はまだまだ多くの課題を残している。ぜひ関係機関で連携をとりながら課題解決に当たり、世界に冠たる成田国際空港を作り上げていただきたい。

成田市や県政のご相談、ご要望をお聞かせください 〒286-0111 成田市三里塚188
小池まさあき 県議事務所 TEL.0476(35)0311
 ●メールもお気軽にご利用下さい。 koike@ngy.3web.ne.jp

印西市側の8.4キロ 28年度供用目指す

早期完成を訴える



議場の自席で、再質問する小池正昭議員

北千葉道路

港の地位向上を図る上でも大きな期待が寄せられている。そこで、北千葉道路の事業区間の進捗状況と今後の見通しはどうか。

小池議員 北千葉道路は、首都圏北部や県西地域と成田空港のアクセス強化を図ることを目的に整備が進められてきた。圏央道とともに、道路ネットワークの新たなルートとして、空

今後、印西市側より8.4キロ区間については、事業効果を早期に発現させるため、平成28年度の部分供用に向けて成田市など関係機関と協議を行ってまいります。

農業問題も積極的に訴える

後継者の育成に力を尽くせ!

小池議員 農業問題について、地域の農業後継者を育成するために、どのような取り組みを行っているのか。

計画未達成を指摘

民間活力導入で再生を図れ!

育成の中核的機関である農業大学校において、来年度からの専修学校化に併せて、実践的な農業技術や経営を学べるようカリキュラムの充実を図るとともに、県内の先進的な農家での長期派遣実習などにより、就農への意欲を高めることとしていきます。

秀な経営事例を学び、将来の経営ビジョンを描くためのセミナーを開催しており、本年度は333名の青年が取り組んでいるところです。

成していくことが重要と考えています。このため県では、経営の拡大や効率化を目指す担い手である認定農業者に対し、経営改善指導や農地の利用集積、機械・施設の導入などを、農協など関係団体と連携しながら重点的に支援しているところです。

特に、地域の経営モデルとなる、年間販売額3千万円以上の企業の経営体を「アグリトップランナー」と位置付け、これを目指す経営体に対し、6次産業化などの経営革新を支援しているところです。

小池議員 平成23年度末の「県営住宅ストック活用計画」における、建て替えや住戸改善の進捗率は約24%、住戸改善546戸で約14%となっている。

見直しにあたっては、急速に進行する居住者の高齢化対応の拡充や、県営住宅ストックを可能な限り耐用年限まで使用するための長寿命化を推進し、ライフサイクルコスト



小池議員 民間活力の導入を図ることによって、県営住宅の再生が実現するという考え方を具体的に検討すべき時期にあると考えるべきかと。

都市整備局長 県ではこれまで、実例県営住宅の敷地の一部を民間事業者に貸し付け、地域の高齢者のデイサービスや託児所などのサービスを提供しており、

12月県議会一般質問

未来への責任を果たします!

小池まさあき 正 県議